

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」

同中生の活動が京都新聞で紹介されました！

中学生時代から社会・地域・企業とつながる学びを経験する取り組みとして、叡山電車との産学協同「八幡前駅プロジェクト」があります。本校最寄駅の一つである叡電八幡前駅を、活気を取り戻した素敵な駅にしたい。そうテーマを掲げて、これまで6年間7回のメンバーチェンジを経て、有志の生徒たちと叡山電車の社員の方々、そして地域の方々との連携をしながら、「駅ホーム手すりの塗装」「クリスマスイルミネーション」「駅の全面改装」「マスコットキャラクター“ハト駅長”の開発」「旧チャペルイスの寄贈」「パン屋さんとのコラボ商品“こいくるパン”開発」など数多くの企画を実現し、駅づくりのムーブメントを起こしてきました。

この冬は新たに、『“ココアツ”な八幡前駅(心が熱くなる/ココにあつまるところ)』をコンセプトに、駅ホームにクリスマスの装飾を施しながら「駅でのクリスマスイベント」や「福祉献金のための募金活動」などを実施しました。その様子が京都新聞に取材され、朝刊に掲載されましたのでご紹介いたします。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生自らが主体的に活動するスタイルを重視した運営を基本に、実社会や企業とコラボレーションする産学協同を実践しながら、未来のイノベーターを育てる学びを創り出しています。

ますます注目を集める「八幡前駅プロジェクト」。今後の活動にもぜひご注目ください。

ツリーのパネルを前にクリスマスソングを楽しむ生徒や地域の子どもたち(京都市左京区・叡電八幡前駅)



同志社中生有志 活性化へ

叡電八幡前駅 X マスマードに

飾り付け、ツリー点灯

叡山電鉄八幡前駅(京都市左京区)の活性化に取り組む同志社中(同)の生徒有志が20日、同駅でクリスマスの飾り付けを行った。学校職員もサンタクロースにふんして子どもたちにお菓子を配り、駅全体がクリスマスモードに包まれた。

学校近くの同駅を盛り上げた。クリスマスツリーをかたよくと、2017年から続く「八幡前駅プロジェクト」で、1、2年の18人が企画した。今年は「心が熱くなるイベントを」と、「人が集まる場所に」といった思いを込めた言葉「ココアツ」をテーマに掲げ、

ツリー点灯式には近所の子どもたちも参加し、生徒からプレゼントされた温かい飲み物を飲みながらクリスマスソングの演奏を楽しんだ。プロジェクトメンバーとして活動する2年の長岡拓希さん(14)は「環境、社会、人に優しい駅づくりを目指して今後もいろいろと計画したい」と話した。

ライトアップは来年2月末まで。乗客への飲み物のプレゼントは21、22日も続ける。午前7時半〜8時半。

(大田敦子)